

## 伊勢湾台風から 55 年(続)

伊勢湾台風関係の資料を図書館で探していたら、岡邦行『伊勢湾台風 水害前線の村』ゆいぽおと、2009 年を見つけた。「水害前線の村」とは、愛知県で 2 つある村の 1 つ飛島村である。現在では名古屋西部の臨海工業地帯として、全国有数の「豊かな村」であるが、海拔ゼロメートル地帯に位置している。

1959 年 9 月 26 日、風速は 40 メートルを超え、最高潮位は 5 メートルを観測。暴風によって、伊勢湾内の海水は巨大な高潮となり、一気に海岸堤や河川堤を破壊し、濁流となって飛島村を襲った。村に壊滅的な被害をもたらした伊勢湾台風である。



この本は伊勢湾台風 50 年を前に、台風を経験した住民などからの聞き取りを中心に、「水害前線の村」飛島村の過去から現在を見つめたドキュメントである。飛島村の歴史にも興味を持ったが、とりわけ注目したのが 1988 年に村長に就任した佐野鳩(おさむ)であった。

終戦直後に広島入りした彼は、広島原爆で硝子状に融けた日本瓦の破片を持ち帰った。そして、戦後は、ガラス張りの木箱に瓦と説明書を入れ、仕事の合間に学校や公共施設に寄贈。原爆の悲惨さを語り、常に平和を訴えた。



平和を願う村長就任当時の彼は、脳梗塞で倒れた経験もあったため、まずは村民の健康を促進。「日本一の健康長寿村づくり」を掲げ、「すこやかセンター」を開設するなどの施策を進めた。村民から気軽に「鳩さん」「ぼっぼさん」と呼ばれ、親しまれた。

3 期 12 年間にわたって村長を務めた佐野鳩は、80 歳で引退した。「約 300 年前の江戸時代に尾張藩の穀高を上げるため、伊勢湾を干拓して飛島村はできた。だから、真面目な村民は農業以外に方向転換ができない。そのためにいまもって水に苦労している。伊勢湾台風という大災害に遭っているしね。たしかに、伊勢湾台風後はうまくいっているが、村全域の土地が低いために、常に水害に対する恐怖心がある。最近、地球全体が温暖化のために海面が年々高くなっているし、このままだと心配だ……」

伊勢湾台風や村について熱く語った佐野鳩は、2006 年 8 月 15 日に亡くなった。享年 87 歳であった。奥さまは名古屋市立女子短大名誉教授の絢子さんである。佐野絢子さんは、私の短大時代の大先輩にあたる。この本で初めて知った。いちど飛島村を訪ねてみたい。

(2014 年 10 月 1 日)